

大学生におけるスポーツチームのチームワークがもたらす影響について

～剣道部を対象に～

1240523 宮部葵

指導教員 中村直人

研究背景

スポーツを行うにあたって、チームワークはとても大切であると考ええる。現在の部活動の指導者は、厳しい練習をひたすら行うなど、個人の実力の向上に目を向け、チーム全体のことをあまり意識していないように感じる。そこで、チームワークが実際の試合の結果や、学力などどのような関係があるのかを明らかにすることで、これからの指導者の在り方や指導の仕方などを明確にしたいと考える。

研究目的

本研究では、成績とチームワークの良し悪しがどのようにつながっているのかを調べ、今後の指導方法として役立てることを目的としている。限定した個人の力やスキルがどのように関係しているのかということは研究されているが、今回使用するチームワークスポーツ測定尺度での実績との相関はまだ研究されておらず、明確にする必要があると考える。

研究方法

大学生の剣道部を対象に、スポーツ版チームワーク測定尺度を用い、アンケートを作成する。そのアンケートを基に、個人の試合の勝率と学業の成績との関係を回帰分析によって研究する。スポーツ版チームワーク測定尺度の開発に協力した競技は、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ラグビーなど10種目である。いずれも、試合中に選手間の複雑な相互作用が求められる種目であり、剣道では用いたことがないため、この研究で実際に使用する。

分析結果

Rを用いて回帰分析を行ったところ、チームワーク測定尺度と試合の勝率、チームワーク尺度とGPAの間には関係があるとは言えないという結果が得られた。チームワークの良し悪しでは、試合の結果やGPAを推測することはできないと言える。

結論

チームワークと深く関係しているものは「残心」の本質ではないかと考察できる。「残心」の本質を理解している人が集まることでチームワークも良くなり、その結果、良い成績を出すことができるのではないかと考えられる。今後の指導者の在り方として、実力の向上だけでなく、剣道に必要な本質的な部分の指導が必要になると考える。